令和6年

健康福祉委員会

3月12日

豊明市議会

健康福祉委員会会議録

令和6年3月12日

午前10時00分 開会

午前11時34分 閉会

1. 出席委員

委員長	堀内 ちほ	副委員長	ふじえ 真理子
委員	青木 けんじ	委員	浅井 たかお
委員	近藤 ひろひで	委員	三浦 桂司
委員	一色 美智子		
議長	鵜飼 貞雄		

2. 欠席委員

なし

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議会事務局長	浅井 俊一	議事課長	深草 広治
議事課長補佐 兼議事担当係長	寺島 慎二	庶務担当係長	福田 悦子

4. 説明のため出席した者の職、氏名

市長	小浮 正典	副市長	土屋 正典
健康福祉部長	中村 泰正	地域福祉課長	小野寺 良夫
長寿課長	伊神 竜一	健康推進課長	川原 静恵
こども保育課長	塚本 由佳	指導保育士	柴田 美由紀
保険医療課長	近藤 有紀子	子育て支援課長	松村 清子

5. 傍聴議員

岡島 ゆみこ	鈴木 智和	中堀 りゅういち	こんどう のぶお
服部 龍一	いとう ひろし	武谷 としお	郷右近 修
林 ゆきひろ	毛 受明 宏	月岡 修一	清水 義昭

6. 傍聴者

2名

午前10時開会

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） おはようございます。定刻に御参集いただき、ありがとうございます。

ただいまより健康福祉委員会を開会いたします。

会議に先立ちまして、市長より挨拶をお願いします。

○市長（小浮正典君） 皆様、おはようございます。

本市の健康福祉委員会に付託されました案件は10の議案でございます。慎重な審査をいただきますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ありがとうございます。

続いて、議長より挨拶をお願いします。

○議長（鵜飼貞雄議員） おはようございます。

本日の健康福祉委員会、昨日の総務と同じように議案の件数は多いです。なので、重複した質疑はちょっと効率悪いと思いますので、その分もっと深掘りした質疑のほうにしていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ありがとうございます。

これより会議を開きます。

お諮りいたします。市長は自席待機といたしたいが、御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 御異議なしと認めます。よって、市長は退席を願ひます。

なお、市長におかれましては、答弁を求める機会がある場合には出席をいただきますので、御承知おき願ひます。

（市長退席をなす）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 本日の傍聴については、申合せに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可します。

本日の議事につきましては、本委員会に付託されました案件につきまして、お手元に配付いたしました議題に従い会議を進めます。

なお、当局におかれましては、反問権を行使される場合は意思表示を明確にされ、論点を整理して反問されますようお願いいたします。また、反問を終了するときも、意思表示を明確にされるようお願いいたします。

初めに、議案第25号 豊明市国民健康保険税条例の一部改正についてを議題といたしま

す。

本案件につきましては、既に本会議で近藤保険医療課長より提案説明を受けていますので直ちに質疑に入りたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第25号は提案説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方は挙手願います。

近藤委員。

○近藤ひろひで委員 議案第25号、議案質疑で今回の引上げ、税率引上げの増額という質問で、増額をしてもなおかつ4,600万の減ということで説明を受けたんですが、そのとおりでよかったですか。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 答弁を求めます。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長(近藤有紀子君) 委員の御質問のとおりでございます。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 近藤委員。

○近藤ひろひで委員 とすると、今回この条例が万が一否決された、議案が否決された場合に、もっと減というのかな、そういうものが増えると思うんですが、具体的な数字はお持ちでしょうか。

(マイクに向かってしゃべっていただけませんか、聞こえませんの声あり)

○近藤ひろひで委員 しゃべっています、しゃべっています。

(傍聴者、発言できませんよの声あり)

○近藤ひろひで委員 委員長、傍聴者、発言。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 傍聴者の方に申し上げます。発言できませんので申し訳ございません。

委員の方、声を大きめにお願いします。

○近藤ひろひで委員 大きめにしゃべっています。聞こえる工夫をしてください。聞こえる工夫をしてください、御自身が。

よろしいですか、質問を続けて。

(聞こえないの声あり)

○近藤ひろひで委員 だから、聞こえる工夫をしてください。何か聞こえない理由があるんじゃないですか。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 近藤委員。続けて質問、お願いします。

○近藤ひろひで委員 いいですか、質問を続けて。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 質問をお願いします。

○近藤ひろひで委員 具体的な数字をお持ちでしょうか、です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 今回提案させていただきました保険税の上げ幅が1人当たり7,391円とさせていただきます。これに来年度の被保数の見込みが1万700人となっておりますので、掛ける額が今回の上げ幅に関する今の現状の税率を維持したものととの差になります。その額につきましては、7,908万円程度と積算しております。税率を上げた額においても、今回赤字、本来必要な税収の不足額が3億3,400万となっておりますので、それに7,900万を足した形になります。ですので、4億1,300万程度がさらに現在よりも税収と本来必要な額との差額というふうになってまいります。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 近藤委員。

○近藤ひろひで委員 そうすると、確認ですが、4億、イコール市税が充当されるという考え方でよろしいですか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 平成30年度の国保制度改革で、将来的には県下で保険料率につきましても統一となっております。それに対して、本市におきましては、現状と県が示します標準保険税率と非常に大きく乖離がございますので、一般会計からの繰入れ、基金からの繰入れをしているわけですが、それに関しましては、本来一般会計からの繰入れにつきましても、本来ほかの社会保険等に参加している方につきましても負担をお願いするような形となっておりますので、その額を6万9,000人と市を見込みました場合、1万700人を引いた残りの方で負担するような形となりますので、相当額の負担になるのかなというふうに考えております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 今回の議案がここだけじゃなくて補正とか一般質問とか議案質疑もあったんですけども、税条例の改正というのは値上げにつながる、市民生活につながる議案です。ちょっと私の理解が間違っていたら御指摘願いたいと思いますが、基本的なこと

で、今回の改正というのは国に1年遅れで、医療分介護納付金の17万は据え置いて後期高齢者の支援分を20万から22万円に引き上げると。課税限度額をこの分、102から104までしておりますけども、後期高齢者の支援分を引き上げる理由と、また、医療費で金額を多く必要としている医療というのは、分かればお願いしたいんですが。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 今回の課税限度額の引上げに関する御質問ということでお答えをさせていただきます。

令和5年3月末の税法改正で国基準が引き上げられたことに伴うものでございます。

この改正につきましては、限度額の引上げで中間所得層の負担を軽減するものであるとともに、なぜ後期だけということにつきましては、団塊の世代の多くが75歳以上になりまして、医療費の増額に伴って後期高齢者の支援金分が増加していることに伴うものでございます。

それから、もう一点、医療費が多くかかるものとはというような御質問でございましたが、1件当たりとか全体としてとか、ちょっとそういったところの分析は出していないところでございますが、比較的長期にわたって医療を必要とするような人工透析ですとか、長期にわたる入院が必要となってくるような精神の疾患に関しましては医療費が高い傾向になっているのではないかなというふうに見込んでおります。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 続けて、先ほど近藤ひろひで委員が言われたんでその部分はいいいんですけれども、今回の国保の加入者の全体数、豊明市の全体数と、7割、5割、2割の軽減されている人数と世帯数を教えてください。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 国保の人数でございますが、令和5年12月末で1万857でございます。

それから、7割、5割、2割の軽減世帯数と人数でございますが、今回、事前の資料でパーセンテージとしてはお示しさせていただいております。国保の全世帯数が7,249世帯でございます。7割が1,756世帯、2,250人程度でございます。5割は868世帯、1,400人程度でございます。2割につきましては834世帯、1,300人ほどでございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 ちょっと続けてすみませんけども、税率改正、値上げが必要だという資料、いろいろいただきましたけれども、このカラーのA3のカラーで、資料で、この資料でどの辺りが大きく負担が増えるのか教えてください。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） グラフのほうでということ、国保につきましては低所得世帯の方が非常に大きい状況となっております。低所得の方々には軽減がそれぞれかけられますので、課税をした場合、中間所得層、グラフからぐっと下がってきた中間辺りの非常に人数を少なくなっていく辺りの方々に負担がどうしても重くかかるような形になっていきます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 図で見るとこの左のほうということですね。

（左から減ってきたの声あり）

○三浦桂司委員 分かりました。

本会議だったか、本会議しかないかな。豊明市の医療費は県下一高いという回答がありましたけども、国民健康保険という制度は1つなんですけども、各市町村ごとに運営していますよね。地域ごと、自治体ごとに運営されてて、各自治体の負担が大きいと思うんですけども、自治体の資金の大きさが保険機能が変わるわけで、各市町村ができるサービスというのは同じなのか違うのかと。

それと、医療費は県下一だと言いましたけども、この税率、税率は愛知県内でどの辺りにあるか教えてください。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 今の御質問の中でサービスは同じかというところでございますが、医療に関しましては、基本的には保険医療でございますので、国が定める診療報酬にのっとりいろいろな医療サービスについて提供される形になっておりますので、変わりはありません。

ただ、独自減免とかそういったところでは自治体によって多少差はございますが、愛知県下ではそんなに大きな差はないと考えております。

あと、もう一点、税率の順位についてでございますが、令和5年度の保険税賦課状況調査での1人当たりの軽減後調定額につきましては、54市町村中の39位となっております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 今回、国保に繰入れをして基金を積み増ししていますけど、これは赤字繰入れにならないのでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 赤字繰入れにならないのかというような御質問でございましたが、基金からの繰入れにつきましては認められているところでございます。今回、標準保険料率における1人当たりの軽減後の課税額が12万8,914円でございます。令和5年度税率での軽減後課税後額と2万5,254円の乖離がございますので、その乖離を埋めるための努力といたしまして、基金からの繰入れ、あるいは保険税収のさらなる増、あるいは保険事業の強化による療養給付費の抑制とか特定財源の増額といったことを行っていくのですが、どれもなかなか保険事業の強化ですとか保険税収の増というのは市民の方の負担にもつながりますので、基金を活用することによって国保会計を成り立たせるというような仕組みとなっております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 三浦委員。

○三浦桂司委員 数年前に前の担当の課長から国保の一般会計の繰入れは激変緩和措置を講じながら繰入れを段階的に抑えるという回答があったと思うんですけども、今、浅井委員が言われたように基金に繰り入れてそこからまたこっちに赤字繰入れにならないかということで、ならないのは分かりましたけれども、他市町もこのような基金に繰り入れて一般会計に繰り出しをしているというのが分かればちょっと教えていただきたいんですが。よそのまちもこういう基金に積んで。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 三浦委員に申し上げます。今回の議案とちょっと逸れていると思いますので、議案に沿った質問をお願いします。

○三浦桂司委員 分かりました。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 浅井委員。

○浅井たかお委員 平成28年度には赤字繰入れは3億6,300万円ほどありましたが、来年度は赤字繰入れがゼロ円となっています。赤字繰入れをなくしたことによる努力支援分はどれくらい県から入りますか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 浅井委員に申し上げます。議案に沿った質問でお願いします。

質問されますか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 結論になってしまうんですけど、入の部分はこの保険税で背負わないと、今の高齢という人口構造から見て保険税を上げないと、軽減措置が結構ありますので、税収不足という、なってしまうと財源不足に陥るという構造で、この制度自体が維持できないということですか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤医療保険課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 先ほどから説明させていただいているものと同様になってきますが、30年度の国保制度改革で療養給付費に関しましては普通交付金という形で10分の10県から交付される形となっております。

一方、納付金という形で県に納めなければならない額がございます。そちらのほうは激変緩和措置がなくなり、しかもいろんな医療費が上がる中でどんどん増額の一方、増額となっております。それに対しまして、本市はもともと保険税率が愛知県下でも低くて、納付金に対して税収入額が少ない状況になります。今後、令和11年度までには県の方針としたしましては納付金ベースでの統一、それから、それ以降は保険税の完全統一というのを国のほうも進めている中で、いずれは保険税でほかの特財等を除いた形で納付金に対しての収入額を求めていかなければならない状況となっておりますが、現在でも非常に乖離が大きく、しかも納付金上がり、被保険者数が減っていく中で、どんどん乖離が広がっていく形となっておりますので、先ほどから申し上げておりますが、保険事業の強化で療養給付費の抑制等を図りながら税収も増しつつ、できる限り基金の活用部分を減らしながら、統一に向けて準備を進めていくという、段階的に進めていくというのが現状でございますので、何とか御理解をいただきたいところと考えております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 議案質疑で令和5年度の加入者の平均世帯所得が100万から150万円と

のことで、以前の議事録で見ると、令和4年度は165万円でした。平均世帯の所得が減っているのに国民健康保険税を上げることを市はどのように考えておられるでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 確かにおっしゃられるように社会保険の適用拡大等がございまして、被保険者の方々の所得というのは減っている形かと思います。全国的にも国保加入の方々は低所得の方が多かったり、あるいは前期高齢者の方が多いという構造上の課題を抱えております。ですが、本来、平成30年度の国保制度改革において、統一的な保険料率に上げていくということが示されておりますので、本市としては、段階的に急激な負担とならないよう配慮しつつ、国保としては保険税の引上げを行ってまいります。

一方で、こうした国保制度の課題につきましては、国全体においても把握がされておりますし、研究も深められているところでございます。国保制度としては、必要な対策を取りつつ、そうした生活が困窮する方につきましては、あるいは子育て中の方につきましては、いろいろな給付金ですとか子育て支援制度とか、ほかの福祉制度のほうで市としては充実を図っていくものと考えております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 再度委員の皆様申し上げます。議案に沿った質問をよろしく願います。

ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 民間企業の社会保険料や共済組合の社会保険料と比較していますか、例えば50代で独り暮らし、年収680万円の場合は、民間企業の社会保険料や共済組合の社会保険料とどれくらい違いますでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁できますか。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） モデル的なケースの試算はしておりませんが、確かに制度間の負担の公平性の問題はございます。保険料の負担率につきましては、全国統計でございまして、国保につきましては10.3%、協会けんぽは7.5%、組合健保は5.8%となっております。ですので、確かに国保については保険料負担率も高い状況となっておりますが、これも先ほどから申し上げますように、一般会計に由来する繰入れも高く入れている状況でございまして、これは、既に社会保険を納めている方にも国保の負担をお願いすることとなっておりますし、国保の方は確かに低所得の方も高い状況ではございますが、

そうした方には、国保制度としては国保制度として必要な賦課をさせていただいた上で、ほかの福祉制度も含めて支援を行っていくという考えでおります。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 数字の確認をしておきたかったんですが、本市の先ほど県内で一番高いという理由、人工透析云々とありました。本市の1人当たりの医療費の額というのはどのぐらいの数値になっていますでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 令和4年度の1人当たり、給付費としての決算額での回答をさせていただきます。

1年間で自己負担を除く療養給付費、療養費、高額医療費に関しまして、34万3,400円となっております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手願います。

浅井委員。

○浅井たかお委員 半数近くが65歳以上、減免されている方も半数以上あり、所得100万円以上の方が50%、100万円の方が50%以上、平均世帯所得も減ってきている、そんな中、一般会計の繰入れをなくしていき、国民健康保険税を上げていくことがいいとは思えないので、反対します。詳しくは本会議で討論します。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 三浦委員。

○三浦桂司委員 賛成ですが、答弁にあったように今のままでは税率改正とか値上げが続いてしまうので、もろ手を挙げての賛成とはちょっと言い切れませんが、現在の制度では既に限界とか制度疲労を起こしていて、継続ができるのかというのは、私自身もちょっと疑問符がついております。人口減少時代とか少子高齢化が負担の押しつけ合いになりがちですが、国に対して、県に対しても、豊明市が国民皆保険制度を維持できるような仕組みに変えてもらうようにしないと、今、国民皆保険制度が始まったのが1961年ですが、当時は勤労世帯7人で1人支えていましたけども、今、これから肩車方式になる

と言われておりますので、反対はいたしません、そういうことも国や県にしっかり要望していただいて、誰もが保険に入れるような制度にしていただくことを要望して賛成をいたします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

近藤委員。

○近藤ひろひで委員 議案第25号、賛成いたします。

いろいろな委員の議論、ありますけれど、社会保険制度、国民保険制度を当市から根本的な改革をするということではできません。制度上の問題を語っている場合ではありません。それから、赤字繰入れとかの問題でもなくて、どこから繰り入れようが直接負担しようが、市民の税負担増につながるということは明らかなので、数字で。それで社保と比べたりとかいう、それはナンセンスだと思います。現状の保険制度の中でこういったいろいろな方法を考えて、これからも、来年もまた同じような議案が出てくるかもしれませんが、それについてもまた皆さんで検討して、本議案については賛成の討論といたします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 議案第25号、国民健康保険税条例の一部改正について、反対の立場で討論いたします。

先ほどからいろんな討論の中でも出ていますが、私はこの制度そのものがもう破綻というのか、今回の値上げ、月額にすれば僅かじゃないかというふうに思う方もいらっしゃるかもしれないんですけども、こうやってじわじわ制度を持続可能にするために上げていかなきゃいけないという理由も分からないことはないんですけども、でも、生活の中で特に年金暮らし、この後出てくる介護保険料もじわじわ上がっていく、国保もじわじわ上がっていく。そんな中で、入ってくるほうの年金がそれに見合っ上がるかっていったら上がってこない。福祉制度でカバーしていくというのはあるんですけども、トータルで生活を見ていかないといけないんじゃないかと思えますし、市としてもそういった国へのそういう意見具申をしていっていただきたいと思えます。反対とします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で討論を終結し、採決に入ります。

議案第25号は原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 賛成多数であります。よって、議案第25号は賛成多

数により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議案第27号 豊明市子ども医療費支給条例の一部改正についてを議題といたします。

本案件について、理事者の説明を求めます。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） それでは、議案第27号 豊明市子ども医療費支給条例の一部改正についてを御説明いたします。

この案を提出いたしますのは、受給資格者の規定を整理する必要があるからでございます。

それでは、改正内容を御説明いたしますので、1枚おめくりください。

今回の改正は、第3条の受給資格者において、受給資格者としなない者について、心身障害者医療費の助成に関する条例による心身障害者医療費の助成を受けることができる者としているところを就学期後の心身障害者医療費の助成を受けることができる者、身体障害者手帳を所持、知的障害者等に限るに改め、同じく受給資格者としなない者については、母子・父子家庭医療費支給条例による母子・父子家庭医療費の助成を受けることができる者としているところ、就学期以降の母子・父子家庭医療費の助成を受けることができる者と改めるものでございます。

なお、附則といたしまして、この条例は令和6年4月1日から施行し、施行の日以降の医療費等について適用するものでございます。

以上で説明を終わります。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 理事者の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑のある方は挙手を願います。

三浦委員。

○三浦桂司委員 ちょっとこれ、今、つらつら言われたんですけども、障がい児はどういう医療が受けられるように変わるのか、母子・父子はいろんな、4つぐらい医療制度があるんですけど、どういうふうになるのか、ちょっとゆっくりお願いしたいんですが、ちょっと……。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 福祉医療につきましては、子ども医療、障害者医療、母子・父子医療、後期高齢者医療の4種類がございまして、複数の要件に当てはまる場合、

対象者の方に最も有利となるように適用してきたものでございます。

今回御質問されました障がい児の場合、母子・父子家庭で子どもの場合というような御質問でございましたが、ちょっとゆっくり説明をさせていただきますと、今までですと、未就学児、就学問わず、障がい児の場合は障害者医療を優先させてまいりました。それを改正によりまして、未就学児につきましては子ども医療優先、就学以降につきましては、精神以外は障害を優先、精神の方に関しましては子ども医療を優先とするものでございます。

母子・父子家庭の場合につきましては、こちらも未就学、就学に関わらず母子・父子医療のほうを優先させてまいりました。それを未就学については子ども医療優先、就学以降については母子・父子を優先と改めるものでございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 今回のこのタイミングでこういった整理されて明確化される、その必要になった背景というのはなぜですか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 受けられるサービスとしては変わらないのですが、それぞれかぶる方につきましては、条例間のそごが一部ありましたので、それを改めるものでございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 そごがないということで、制度は変わるだけで、サービスが一番いいサービスを受けられるということによろしいですか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） おっしゃるとおりです。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 今回の改正によって市の財政負担がどうなるか、説明してください。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁できますか。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 公費補助率の高い制度を適用させるようにしてまいりましたが、それぞれ県費の負担があるものでございますので、そんなに大きく財政負担が変わるものではございません。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

近藤委員。

○近藤ひろひで委員 この条例の条文を読むと、なかなかぼっと耳に入ってこない、頭に入ってこない部分があると思うんですね。支給対象になる方々にどのような、このままでその対象の方々をお願いしますというのちょっとあれなので、何か工夫されていると思うんですが、具体的におっしゃっていただける部分があれば結構です。お願いします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 市民の方々にはどれに該当されてというのはなかなか分かりにくいものでございます。窓口にお越しいただいた際にその方の家庭の状況、どれとどれが制度としてかぶさっているのかというのは、担当のほうでより有利なほうを判断させていただいて対応させていただく部分はございますが、今回条例をしっかりと改めさせていただきましたので、それにしっかりと適応させる形となります。

なお、市民の方については、まず、一点、子ども医療のほうがこの春より通院、入院が適用拡大になりまして、子どもであれば無料という形が浸透していくと思いますので、そのことをベースに御説明をしっかりとさせていただこうと思っております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手願います。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 討論を終結し、採決に入ります。すみません。

議案第27号は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 御異議なしと認めます。よって、議案第27号は全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議案第28号 豊明市心身障害者医療費の助成に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

本案件について、理事者の説明を求めます。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） それでは、議案第28号 豊明市心身障害者医療費の助成に関する条例の一部改正についてを御説明いたします。

この案を提出いたしますのは、適用除外規定を整理する必要があるからでございます。

それでは、改正内容を御説明いたしますので、1枚おめくりください。

今回の改正は、第4条の適用除外におきまして、子ども医療費支給条例に規定する未就学児としているところを未就学の心身障害者手帳所持、知的障害者等に該当する者に改め、精神障害者保健福祉手帳所持等、かつ、母子・父子家庭医療費支給条例による母子・父子家庭医療費の助成を受けることができる者としているところを精神障害者保健福祉手帳所持等、かつ、母子・父子家庭医療費及び子ども医療の助成を受けることができる者と改めるものでございます。

なお、附則といたしまして、この条例は令和6年4月1日から施行し、施行の日以降の医療費等について適用するものでございます。

以上で説明を終わります。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 理事者の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑のある方は挙手願います。

三浦委員。

○三浦桂司委員 これも先ほどと同じで、もう少しゆっくり未就学児とかはどうなるのかをもう一度お願いいたします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） まず、障がい児の場合でございます。障がい児につきましては、未就学につきましては子ども医療、就学以降につきましては障害者福祉医療となっていたものを未就学につきましては子ども医療そのまま、就学については、精神以外の障害福祉医療ということで、精神については子ども医療を当てはめるというような形になります。

また、母子・父子家庭については、未就学就学問わず母子・父子、精神以外となっていたところを未就学就学問わず、子どもか母子・父子の精神のみというふうにします。です

が、母子・父子の条例で子ども医療優先となっておりますので、母子・父子家庭の場合は子ども医療優先となるものでございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 母子・父子で子どもが障がいを持っている人に対して、本人に有利になるような制度ですかね。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

近藤保険医療課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 基本的には先ほど27号議案のほうで回答させていただきましたとおり、子どもであれば皆さん同条件でサービスが受けられるように改めさせていただきますものでございます。影響はございません。

以上です。

○三浦桂司委員 分かりました。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 すみません。6歳未満の子どもに対してはどのように、どうなって。

（未就学の声あり）

○浅井たかお委員 すみません、分かりました。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 質問されますか。

○浅井たかお委員 再度お願いします。すみません。

○保険医療課長（近藤有紀子君） 子ども医療でございます。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手を願います。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で討論を終結し、採決に入ります。

議案第28号は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 御異議なしと認めます。よって、議案第28号は全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議案第29号 豊明市介護保険条例の一部改正についてを議題といたします。

本案件につきましては、既に本会議で伊神長寿課長より提案説明を受けていますので、直ちに質疑に入りたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第29号は提案説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方は挙手願います。

浅井委員。

○浅井たかお委員 本会議で説明があったかもしれませんが、聞き漏らしてしまったので質問します。国が所得段階を細分化している理由は何でしょうか。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長(伊神竜一君) 介護保険制度の持続可能性を確保する観点から、1号被保険者の間で所得再分配機能を強化するためでございます。

以上です。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 この表で見ると、こっちの表ですね、予防の。第1段階の人は2,194人だよ。安くなる方も出るわけですか、今回。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長(伊神竜一君) 第1段階の方で軽減後の場合ですと改定後のほうが安くなる場合も、ほかの段階もございしますが、特にその段階は下がっております。

以上です。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 ちょっとこれも確認かもしれませんが、基金は幾らで幾ら取り崩して第9期が始まるんですか。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長(伊神竜一君) 基金の取崩しですが、第9期の3年間で4.5億を予定しております。取崩し後でおおむね6.7億となる予定でございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

近藤委員。

○近藤ひろひで委員 すみません、シンプルな質問。これは今までの段階というところが新たに付け加えられるのではなく、今までのものの中を細分化した、するという理解でよろしいですか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 委員おっしゃるとおりで、単純に14段階、15段階を付け加えるというのではなく、今までの現状の13段階の中の所得段階を変えておりますので、15全体で中を見直しているという形でございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 15段階の方は年額3万1,900円も上がりますけれども、年収はどれくらいの方で、そういった方は市内にどのくらいいるか把握されているのでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 所得が1,200万円以上の方で、これは今年度の12月の人数を基にしたものでございますが、人数としては200人弱というふうに想定しております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 今回の介護保険料が可決されれば県内で12番目ということですが、本市が比較的高い理由は何か、どういうことかということで、御説明ください。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 本市が比較的高い理由ということなんですけれども、1つには本市の場合は入所系に割と多く入る方が多いというところが1つでございます。それから、もう一つが、以前に基金のほうに割と少なくて底をつきそうになったというような経験を踏まえまして、そういうことがないように介護保険財政の健全性を踏まえまして、以降そういうような形で保険料を想定しつつ決めておりますので、現状のような額に落ち着

いているというところがございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 地域包括ケア、豊明モデルで、介護認定率はどの程度抑えることができていますでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） これも議案質疑のほうでちょっと申し上げたかなというふうに思うんですけれども、本市の介護予防の取組は、あくまでも要介護の状態になるというのをちょっと遅らせるというところがございますので、それが料にどういうふうに影響するかというような数字はちょっと持ってはおりませんが、認定率という面で見ますと、令和4年で見ると県平均の12.1に対して、本市が軽度の方、要支援1から要介護2までの方でみると、本市は10.9と極めて低い数値でありますので、効果はあったというふうに考えております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 4億5,000万繰入れできなかったらかなり、これで金額が抑制されているわけで、できなかった場合のざっくりした表というか、幾らぐらい上がるか分かりますか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 基金を使わなかった場合の保険料ですが、基準となる額のところでは、6,497円と現状より672円、年間にすると8,000円ちょっと高くなる予定になっております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 三浦委員に申し上げます。全体的に議案に沿って保険条例に関する質問をお願いします。

ほかにございませんか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 本会議質疑で、第9期でどのぐらい、それは4億5,000万ということ

で、今期のこの8期の3年間で積立てが予想より多く積み立てられた、その影響、コロナの影響かとかというのがあったんですが、その辺、もうちょっと、基金がこれだけたまつた背景、どういうふうに分かっていますか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 8期中ですが、おおむね4.5億の基金の積み増しをできております。これに関してはコロナの影響というふうに申し上げましたが、やはり皆様、外出を控える、当然福祉施設に行くということ自体もちょっと怖い、遠慮してしまうということがありますので、通所系とか訪問系、やはり利用を控えるということがございますので、そういった形の影響かなというふうに考えております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 関連なんですけども、外出控えて訪問サービス、通所サービスの控えたということなんですけども、生活困窮でサービスを控えたとか、そういうところまでの把握はされたんでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） コロナのときの困窮ということが原因で利用控えというところは、特にそれほど表に出るような影響はなかったかなというふうに想定しております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 近藤委員。

○近藤ひろひで委員 すみません。議案第29号は介護保険料の改定に伴う議案ということではよろしいですか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） おっしゃるとおりでございます。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 先ほどの続きなんですけども、困窮で控えている人というのか、そういう影響はなかったと思うっておっしゃったんですけど、それは感覚的なものですか、それとも何か統計したものでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ふじえ委員。すみません、申し訳ないです。これ、議案に沿った質問でお願いします。

○ふじえ真理子委員 今回、介護保険料の値上げに関する事なので、こういったサービス控えがどういった背景があるのかというのを聞いたかったので質問しています。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） そういった生活困窮で利用ができない等々は統計的に出したものではございませんし、直接的に市にそういうようなことが声が寄せられたということもございませんが、ただ、コロナ、影響によって所得が下がり利用ができないという方もゼロではないだろうなというところを想定しましてそういうように思うというような表現をさせていただきました。

以上でございます。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手を願います。

浅井委員。

○浅井たかお委員 詳しくは本会議で討論しますけれども、ここ最近、介護保険料がどんどん上がってきています。それに応じて介護サービスが充実していればいいですが、第8期では介護施設の待機者もいると思われて、基金が11億も残っていました。また、介護事業者の不正も全国各地で起こっています。このような状態で介護保険料を上げることを市民から理解を得られるでしょうか。できるだけ介護保険料を抑えつつ介護サービスを拡充していくことが求められます。誰一人取り残さない豊明市の実現を求めて反対いたします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 令和6年度、医療と介護と障害の同時改正の年になりますけれども、介護保険制度があるおかげで本当に助かっている世帯が多くあります。誰もが年齢を重ねて介護を必要とする可能性は否定できませんので、しっかり定着していますよ、これ。我が家も使わせていただいておりますけれども、もしこれがうまく進まないとなれば自己責任になると、とてもじゃないけどどういう社会になるか分かりませんので、今回4億5,000万円の繰入れができていて金額を抑えられておりますので、全体としては若干アップしておりますけれども、今後も利用者は増えると思います。できるだけ基金を積んでいただいて基金から繰入れをしていただくようお願いして、賛成といたします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

近藤委員。

○近藤ひろひで委員 詳しくは本会議場で会派で討論いたしますが、賛成の討論といたします。

介護保険料ゼロでよりよいサービス、今より10倍ぐらいのサービスができるのが理想だとは思いますが、これはどなたも、市民の方も含めて、国民誰も理解できる話ではありません。ですから、必要に応じてというところで条例を一部改正していくと、これはもう普通の流れで本当は討論に値しないんですが、そういった理由で賛成といたします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 議案第29号 豊明市介護保険条例の一部改正について、反対の立場で討論いたします。

私自身は、こういう人の命だとか健康を保っていく福祉には本来国がもっとお金を投入すべきと思っています。今の国の流れを見ていますと、やはり先ほどの国保もそうなんですけども、じわじわ制度を継続していかなきゃいけないから、また、介護従事者への処遇改善、それも当然必要なんですけれども、一方で生活が逼迫していく方もいらっしゃるわけですから。そういった国へのそういう意見具申をしていただきたい。今回のこの改定には反対といたします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で討論を終結し、採決に入ります。

議案第29号は原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 賛成多数であります。よって、議案第29号は賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議案第30号 豊明市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部改正についてと、議案第31号 豊明市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに関わる介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部改正については関連がありますので一括議題としたいが、これに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 御異議ありませんので、議案第30号と議案第31号を一括議題といたします。

理事者の説明、質疑、討論は一括して行い、採決は議案ごとで行います。

本案件につきましては、既に本会議で伊神長寿課長より提案説明を受けていますので、直ちに質疑に入りたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 御異議なしと認めます。よって、議案第30号と議案第31号は提案説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方は挙手願います。

浅井委員。

○浅井たかお委員 この条例が改正された背景は何でしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） この両方、改正の背景でございますが、国のほうで持っている省令、指定居宅サービス等の人員等の事業の人員設備等の基準というような省令がございまして、これが虐待時の対応であるとか、それから医療機関、福祉との連携等に関しまして対応を改めるようにということで省令を改正しましたので、本市としても併せて条例を改正するものでございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 近藤委員。

○近藤ひろひで委員 じゃ、関連で30号、31号。実際にいろんな新聞に載ったりいろんな報道されるような事例が発生したと。そういったことも含めてサービス内容の規定強化という意味合いで国のほうからの指針を示されているということで、そういう理解でよろしいですか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 委員のおっしゃるとおりでございます。現状の状況、それから、様々な課題を踏まえ、省令のほうで対応強化するというのがございまして、それに合わせて条例を改正するものでございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 身体的拘束等の対応、時間帯、時間等や緊急、やむを得ない理由の記録の内容や信憑性、保存状況は誰がチェックするのでしょうか。また、親族等への開示は

されるのでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 申し訳ありません。ちょっと詳細なものは、すみません、今ちょっと持っていないのですが、こちらの改正は既に施設系サービスで規定を置いておるもので、それを訪問系、それから通所系のほうには新しく盛る規定がなかったのをそれを追加するというものでございますので、その対応は施設系サービスの現状と合わせてという形になります。

以上でございます。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 30号は地域密着型の要介護で31号は要支援と、国の省令に、改正に従ったということだと説明ですけれども、医療と福祉の連携を図ったような部分がありますけど、そういう理解でよろしいですか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 先ほどの虐待等のほかに医療機関との連携体制の構築というところを加えてございます。それに関しては、協力医療機関との連携等が施設設立時に限られているというような、答えた事業所が多かったというような課題に対応するための改正というふう聞いております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 市として事業者の監査はどのように行うのでしょうか。条例を改正する部分について、どのようにチェックするのでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 本市は地域密着型サービスの指定権限を持っております。よって、通常、法の規定に従いまして年間にどれだけの施設を監査するというような予定を組んで定期的に入って行くというような予定としております。

それから、当然本市が指定していない施設において虐待の通報等があれば、当然必要に応じて事業所に聞き取りを行う等の対応は行っております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 浅井委員。

○浅井たかお委員 新旧対照表の第8条の指定定期巡回、随時対応型訪問介護看護事業者から第40条の指定看護小規模多機能型居宅介護事業者までいろいろな事業者がありますけれども、市内にはどれが幾つあるか、また、そのサービスを受けている人がどれくらいいるか把握しておられるでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁できますか。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 本市、小規模多機能型居宅介護が1、グループホームが4、地域密着の介護老人福祉施設入所者生活介護が1、小規模デイが3でございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 浅井委員。

○浅井たかお委員 すみません、もう一度お願いします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 小規模多機能が1、グループホームが4、いわゆるミニ特養ですね、地域密着型の介護老人福祉施設入所者生活、これが1、小規模デイが3。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 26条以降の第2種協定指定医療機関はどういう医療機関か。また、豊明市には幾つあるのでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

○長寿課長（伊神竜一君） 第何種。

○浅井たかお委員 第2種協定指定医療機関はどういう医療機関で、豊明市には幾つあるのでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 2種は2類感染症に対応している医療機関でございます。2種感染症の対応できる医療機関ということでございます。失礼しました。2種感染症に対応している医療機関でございます。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

数は。

○長寿課長（伊神竜一君） ちょっとすみません。ちょっと数字を持っておりませんが、たしか1というふうに記憶しております。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

浅井委員。

○浅井たかお委員 同じく26条の協力医療機関以降には、説明に何々に努めなければならないという文言が多いんですけども、努めている状況は誰がどのように把握するのでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長（伊神竜一君） 指定権限を持っております本市でございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手を願います。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で討論を終結し、採決に入ります。

初めに、議案第30号について採決を行います。

議案第30号は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 御異議なしと認めます。よって、議案第30号は全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議案第31号について採決を行います。

議案第31号は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 御異議なしと認めます。よって、議案第31号は全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

ここで会議の途中であります。10分間の休憩といたします。

午前 11 時 1 分休憩

午前 11 時 11 分再開

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 休憩を解き、休憩前に引き続き会議を進めます。

続いて、議案第34号 令和5年度豊明市一般会計補正予算（第12号）についてのうち、本委員会所管部分についてを議題といたします。

本案件について、理事者の説明を求めます。

小野寺地域福祉課長。

○地域福祉課長（小野寺良夫君） 議案第34号 令和5年度豊明市一般会計補正予算（第12号）のうち、本委員会所管分の地域福祉課分を御説明いたします。

初めに、歳出から主なものについて御説明いたします。

予算書は、52ページ、53ページをお開きください。

53ページ最上段、2 福祉推進事業の説明欄、生活困窮者緊急生活支援事業委託料330万円は、まごころサポート便に対する委託料の減額となります。

次の段、4 社会福祉総務事務事業の説明欄、光熱水費120万円は、総合福祉会館の電気料金について減額するものです。

続きまして、歳入の主なものについて御説明をさせていただきます。

予算書は、30ページ、31ページをお開きください。

31ページ上段、5 雑入のうち、上から3番目の訓練等給付費過年度返還金426万円は、障害福祉サービス事業所において、県から行政処分を受けたことに関連して、訓練等給付費などに係る市が支出したサービス提供に係る給付費を2事業所から返還されるものとなります。

以上で説明を終わります。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 近藤課長。

○保険医療課長（近藤有紀子君） それでは、保険医療課所管分につきまして、御説明をいたします。

歳出から御説明いたしますので、補正予算書の53ページを御覧ください。

上から3段目、国民健康保険特別会計繰出事業で3億6,974万5,000円の増額です。

説明欄を御覧ください。

国保税の低所得者軽減などの影響分に対して繰り出す保険基盤安定繰出金の保険税軽減分の増額、保健所支援分の減額、2つ飛んで、財政安定化支援事業繰出金の増額は、本年度の繰出額の確定によるものです。

また、職員給与費等繰出金の減額は、国民健康保険特別会計における総務費の減額分でございます。

その他国民健康保険特別会計繰出金の3億6,734万7,000円の増額につきましては、国保

税が急激な増額とにならないように運営するため、国民健康保険財政調整基金へ積み立てし、予算編成に備えるものでございます。

また、一番下の産前産後保険税繰出金は、1月より始まりました産前産後減免制度に関する繰り出しでございます。

1ページおめくりいただきまして、55ページ、56ページをお願いいたします。

上から2つ目、5目 後期高齢者医療費で356万4,000円の増額です。

説明欄を御覧ください。

1つ目の後期高齢者医療広域連合事務費負担金の減額と3つ目の後期高齢者医療保険基金安定繰出金の増額は、ともに本年度の額の確定によるものでございます。

2つ目の後期高齢者医療事務費繰出金の減額は、後期高齢者医療特別会計における総務費、一般管理費と徴収費の減額分となります。

続きまして、歳入を御説明いたしますので、14ページ、15ページを御覧ください。

14款1項1目の説明欄、上から2段目から4段目と、3ページおめくりいただきました21ページの上から2段目から5段目につきましては、それぞれ国県の負担分の確定額によるものでございます。

以上で保険医療課分の説明を終わります。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 伊神長寿課長。

○長寿課長（伊神竜一君） それでは、長寿課所管分について御説明いたします。

52ページ、53ページを御覧ください。

3款1項2目 老人福祉費の右ページ、9 介護保険特別会計繰出事業は、介護保険特別会計の執行見込みの減額に合わせ、一般会計からの繰出金を総額で271万5,000円減額するものでございます。

歳入の補正はございません。

以上で説明を終わります。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 松村子育て支援課長。

○子育て支援課長（松村清子君） 子育て支援課所管分につきまして、主なものを歳出より御説明いたします。

54ページ、55ページを御覧ください。

下段の3款2項1目 児童福祉総務費、3 児童福祉事務事業5,630万3,000円の減額です。

説明欄の下から4つ目にあります子育て世帯生活支援特別給付金は、低所得の子育て世帯への国の給付金150万円、その下の児童手当費3,800万円など、これら全て執行見込みに

より減額するものでございます。

続きまして、58、59ページを御覧ください。

中ほどの4款1項2目 母子保健費、1 母子保健活動事業1,580万円の減額です。説明欄にあります出産・子育て応援交付金250万円など、いずれも執行の見込みにより減額するものでございます。

その下の2 子育て予防接種事業5,700万円は、主に子宮頸がんワクチンの接種に関する予防接種委託料の執行見込みにより減額するものです。

続いて、歳入について説明をさせていただきます。

14ページ、15ページを御覧ください。

14款1項1目 民生費国庫負担金、2 児童福祉費負担金3,028万9,000円の減額です。これは、先ほど歳出で説明しました児童手当費等を減額したことによるものです。

1枚おめくりいただき、16ページ、17ページを御覧ください。

14款2項2目 民生費国庫補助金、3 児童福祉費補助金は194万円の増額です。

説明欄を御覧ください。

児童虐待DV・対策等総合支援事業費補助金は、主に子ども家庭支援拠点における家庭相談員等の人員配置に関する補助金でございますが、児童発達支援センターにおいて、地域の中核的役割を担うべく機能強化に関する事業を実施している場合に国庫補助対象となったことを受けまして、本補助金の歳入見込額を増額し、計上するものでございます。

2つ下の子育て世帯生活支援特別給付金事業費補助金は、先ほど歳出で説明しました子育て世帯生活支援特別給付金を減額したことによるものです。

続いて、同じページの3目 衛生費国庫補助金、1 衛生費補助金のうち、説明欄の出産・子育て応援交付金事業費補助金4,666万6,000円は、当初、国負担分について県の間接補助として通知があり、県補助金に合算して計上しておりましたものを後に直接補助となりましたので、こちらに計上させていただくものでございます。

20ページ、21ページを御覧ください。

15款1項1目 民生費県負担金、3 児童福祉費負担金681万4,000円の減額は、歳出で説明いたしました児童手当費を減額したためです。

22ページ、23ページを御覧ください。

15款2項3目 衛生費県補助金、2 保健衛生費補助金のうち、説明欄の出産・子育て応援交付金事業費補助金4,989万7,000円の減額は、先ほど説明させていただきました国庫補助金への計上の分と歳出の減額によるものでございます。

以上で説明を終わります。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 塚本こども保育課長。

○こども保育課長（塚本由佳君） それでは、こども保育課所管分につきまして、御説明いたします。

初めに歳出から御説明いたしますので、56、57ページをお願いいたします。

3款2項2目 保育園費、2 保育事業は2,051万2,000円の減額です。

主なものを説明させていただきます。57ページ、事業2の保育事業の説明欄を御覧ください。

上から5つ目、子育て支援員養成研修委託料72万3,000円の減額は、隔年で開催しております子育て支援員の研修でございますが、受講の申込みが少なく開催ができなかったため、減額させていただくものでございます。

続きまして、説明欄一番下の派遣保育士負担金500万円の減額は、内山保育園の民営化のための引継ぎ保育で、4月から1年間、4名の保育士等を派遣する試算で予算計上いたしました。事業者との協議の中で6月から1名で開始し、順次人数を増やしていくということになりましたので、不用額を減額するものでございます。

続いて、歳入について御説明させていただきます。

16、17ページをお願いいたします。

17ページ中段、14款2項2目4節 保育園費補助金、説明欄、子育て支援員研修補助金38万3,000円の減額は歳出で御説明いたしました子育て支援員研修で、開催しなかったため、補助金を減額いたしました。

続きまして、22、23ページをお願いいたします。

上段、15款2項2目6節 保育園費補助金、説明欄、保育所等給食費軽減対策支援金500万6,000円の増額は、9月議会にてお認めいただきました保育所等給食費軽減対策支援金に対する県の補助金が10月から3月までの半年分も補助されることとなりましたので、後半部分を増額するものでございます。

以上で説明を終わります。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 川原健康推進課長。

○健康推進課長（川原静恵君） それでは、健康推進課所管分につきまして、歳出より主なものを御説明いたしますので、補正予算書の58、59ページを御覧ください。

4款1項3目、1 健康推進活動事業は775万9,000円の減額です。

60、61ページを御覧いただきまして、説明欄1つ目です。成人病診断等委託料は執行の見込みにより685万1,000円減額するものです。

続きまして、3 新型感染症予防接種事業は4,595万9,000円の減額です。

説明欄を御覧ください。

手数料を除き、新型コロナワクチン接種事業について、執行の見込みにより減額するものです。3つ目の手数料につきましては17万6,000円の増額となっております。コロナワクチンを保管するためのディープフリーザーが不要となるため、処分する手数料を計上しております。

続きまして、歳入について御説明いたしますので、補正予算書の12、13ページを御覧ください。

13款1項3目、1 保健衛生使用料2,621万3,000円の増額です。患者数の増加などにより増額しております。

続きまして、14、15ページを御覧ください。

14款1項2目、1 衛生費負担金、説明欄、新型感染症対策事業費等負担金は8,131万3,000円。

続きまして、16ページ、17ページを御覧ください。

2項3目、1 衛生費補助金、説明欄1つ目、新型感染症対策事業費等補助金1億790万円は、いずれも新型コロナワクチン接種事業について、10分の10国庫の充当を計上しております。

8ページを御覧ください。

第2表 繰越明許費です。4款1項 保健衛生費、新型感染症予防接種事業940万6,000円は、新型コロナワクチン接種事業のうち、年度内に完了が見込めない接種費用の支払いなどを繰越しさせていただくものです。

以上で説明を終わります。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 理事者の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑については、ページ数を示してからお願いします。

質疑のある方は挙手を願います。

浅井委員。

○浅井たかお委員 歳出55ページ、下のほうの児童手当費が3,800万円減と大きいですが、対象児童が減少しているのか、どういうことでしょうか。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

松村課長。

○子育て支援課長（松村清子君） 当初予算では、大体なんですけれども、子どもさんの数を7,900人ぐらいと見込んでいたのですけれども、かなり粗い数字ではございますが、大

体300人ぐらい減らした実績を見込み、減額をさせていただくものでございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 同じページの枠の中の家庭相談員の報酬114万7,000円の減で、年々家庭相談の件数はいつも決算で増えているんですが、これは途中でやめられたのか、減の理由をお願いします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

松村課長。

○子育て支援課長（松村清子君） 家庭相談員の報酬でございますが、今年度の9月の補正予算で正職の保健師が1人育休に入ったことと、あと、業務量が増大しているということから、1人分、6か月分の報酬の増額を予算でお認めいただいたところでございます。

しかしながら、すぐに募集しても応募がなく、このたび2月から採用が、任用ができたということで、大体4か月分ぐらい不用になりましたので減額とさせていただいております。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 今、家庭相談員、2月からという先月ですね。その間、家庭相談員がいなかったのか、ほかの職員で回したのか。家庭相談員というのは会計年度任用職員さんですか。ちょっとそこのところ、お願いします。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 答弁願います。

松村課長。

○子育て支援課長（松村清子君） 家庭相談員は会計年度職員でございます。3名家庭相談員がいて、9月補正で1名分増額をお願いしたところでございます。この4か月間、家庭相談員が採用できなかったというところでは、同じ係の正職員とそのときに在籍していた家庭相談員で業務をこなしていたという状況でございます。

以上です。

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） ほかにございませんか。

（進行の声あり）

○健康福祉委員長（堀内ちほ議員） 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手を願います。

(進行の声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 以上で討論を終結し、採決に入ります。

議案第34号のうち、本委員会所管部分については、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第34号のうち、本委員会所管部分については、全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議案第35号 令和5年度豊明市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)についてを議題といたします。

本案件につきましては、既に本会議で近藤保険医療課長より提案説明を受けていますので、直ちに質疑に入りたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第35号は提案説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方は挙手願います。

一色委員。

○一色美智子委員 15ページの保健衛生費及び事業のデータヘルス計画策定事業なんですけど、当初予算357万5,000円だと思うんですけども、この減の理由をお聞かせください。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 答弁願います。

近藤課長。

○保険医療課長(近藤有紀子君) これにつきましては、プロポーザルを行いまして3者に参加いただきました。ですが、非常にその中の1社が低額で提案いただきましたのでこの結果となっております。

低額の理由につきましては、未受診者対策委託でデータ分析がある程度済んでいるからということで低額になったと考えております。

以上です。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) ほかにございませんか。

(進行の声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手を願います。

(進行の声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 以上で討論を終結し、採決に入ります。

議案第35号は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第35号は全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議案第36号 令和5年度豊明市介護保険特別会計補正予算(第3号)についてを議題といたします。

本案件につきましては、既に本会議で伊神長寿課長より提案説明を受けていますので、直ちに質疑に入りたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第36号は提案説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方は挙手願います。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 7ページの右上の介護認定審査会委員報酬208万減で不用額ということなんですけど、認定審査会の委員というのは何名をいて、高齢者が増えるということ認定審査会の委員さんも忙しくなるんじゃないかと勝手に想像できるわけですが、この減の理由をお願いします。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 答弁願います。

伊神課長。

○長寿課長(伊神竜一君) 5人で1組、それが4つの組であるという形で、それを回していく形にしております。それで、審査の……。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 伊神課長、すみません、マイクを近づけて。

○長寿課長(伊神竜一君) 失礼しました。5人で1組でそれが4つの組があると、それで認定調査を回していくという形にしております。

実際、認定の件数のほうなんですけれども、新規の方自体は増えているんですが、更新、区分変更の方が若干今までよりも減っているというようなこともありまして、このような形で減で出しているというところがございます。

以上です。

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) ほかにございませんか。

(進行の声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 以上で質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手を願います。

(進行の声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 以上で討論を終結し、採決に入ります。

議案第36号は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第36号は全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、議案第37号 令和5年度豊明市後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)についてを議題といたします。

本案件につきましては、既に本会議で近藤保険医療課長より提案説明を受けていますので、直ちに質疑に入りたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第37号は提案説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑のある方は挙手願います。

(進行の声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 質疑を終結し、討論に入ります。

討論のある方は挙手願います。

(進行の声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 以上で討論を終結し、採決に入ります。

議案第37号は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) 御異議なしと認めます。よって、議案第37号は全会一致により原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で本委員会に付託されました案件の審査は終了いたしました。

お諮りいたします。委員会報告書については、私に一任願えますか。

(異議なしの声あり)

○健康福祉委員長(堀内ちほ議員) ありがとうございます。委員会報告書については、例に従い提出をさせていただきます。

長時間にわたり御審査、御苦労さまでした。これにて健康福祉委員会を閉会いたします。

午前11時34分閉会